

(学校番号255)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【柏陽中学校】

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> ・学習に対して興味・関心はあるが、根気よく定着するまで取り組むまでは至っていない。 <指導上の課題> ・タブレット等のICTを利用した授業に取り組みつつあるが、まだ実践の積み上げは少ない。	⇒ ・計画的に語彙・漢字練習をして漢字の反復・習熟を行う。 ・ドリルパークやスタディサプリを活用して、学習履歴を確認し、解き直し等の補習を行う。
思考・判断・表現	<学習上の課題> ・思考が複雑な問題に対し、自分なりの考えを持って取り組むが自信を持って説明したり、発表したりまではいかない。 <指導上の課題> ・深い学びにつながる課題への取り組みが不十分であり、それらの共有の仕方もまだ研究の余地がある。	⇒ ・根拠を明確にして自分の考えを導き出し、他者に伝える場を設定する。 ・他者の考え方を考察して、互いに考え方を深めていく場を設定する。

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語、数学ともに平均正答数は半数を超えている。国語に関しては「我が国の言語文化に関する事項」に関する問いは高い正答率であった。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」について県・全国と比較して劣っている現状である。特に「短歌に用いられている表現の技法の説明」の問題に改善が必要である。また、自分の考えをまとめたり、説明することに関して授業の中でさらに取り組んでいく必要があると考察する。数学に関しては「データの活用」で県・全国の数値を超える正答率であった。今年度より力を入れたICTを用いた授業の効果が出てきていると推測される。「確率」の問いに関しても県・全国平均を超えている。
思考・判断・表現	国語は「読むこと」に関する設問で課題がみられる。文章を読み解き、筆者の意図をくみ取ることが苦手な生徒が少なくない。朝読書や授業の中で文章を読む力や推察する能力を養っていきたい。数学は「知識・技能」は県・全国とほぼ変わらないが「思考・判断・表現」の数値は県・全国との差異がある。身についた学力や既習事項を用いて新しい課題にチャレンジしたり、自分の考えを他者に説明したりする能力を養っていきたい。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	ドリルパークやスタサプを用いて、自分の学力に見合った基礎学力の定着の学習を行うことができた。定期テスト後には解き直しを行い、反復・習熟に取り組んだ。また、授業の中で積極的にタブレットを用いて、ICTのスキルアップを図り、共同学習にも取り組むことができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	自分の考えをしっかりと説明する場面を意図的に設定し、ミライシードやオクリンク等のICTコンテンツを用いて、主体的に対話的に授業に参加できる生徒が増えてきた。	導入されたオクリンクプラスを徐々に用いて、授業の中で自分や他者の意見を共有できる場面を増やしていく。

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

※評価
A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)